

平成27年度 会長あいさつ

本会は「生命諸科学の研究と共生社会の構築をめざした実践的研究を行う。特に、特別支援教育（重複障害教育）を軸とし、生命の多様性を視座に入れ、生命諸科学（教育、医療、福祉、労働等）に関する理念、方法、技術及び制度の改善等の研究活動を行い、それらの向上と発展に寄与するための諸活動を行う。」ことを目的として活動しています。

現在、文部科学省が打ち出した「共生社会の形成の向けてのインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進」等方針は、共生社会の構築をめざす本研究会の目標と合致するものです。さらに本会は、上記のことに加え、重複障害教育を軸に研究活動を続けてきました。その立場から「一人でも欠けたら、それは、インクルーシブではない。」ということをおお切に活動を継続してきました。本会の活動の重要な柱の一つである研究協議会においても、このことを常に世に問い続けてきました。

第1回研究協議会 平成23年8月6日（土）於：淑徳短期大学板橋キャンパス
「障害の重い子どもとインクルーシブ教育」をテーマにシンポジウムを開始しました。

シンポジストに岩井雄一（元全国特別支援学校校長会長）、大内進（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員）渡邊健治（東京学芸大学教授・元東京学芸大学副学長）をお招きし、それぞれの立場で、上記のテーマで持論を展開いたしました。さらに内容を深めるため、柳本雄次（元筑波大学教授）に指定討論者をお願いし、猪瀬義明（川村学園女子大学准教授・本研究会会長）が話題をコーディネートする形でシンポジウムを進めていきました。（【註】肩書きは研究協議会開催時のもの、以下同様）

第2回研究協議会 平成24年8月4日（土）於：淑徳短期大学板橋キャンパス

午前中は、特定非営利活動法人日本アビリティーズ協会会長（内閣府障がい者制度改革推進会議差別禁止部会副会長）の伊東弘泰氏より「アビリティーズ運動と障害者差別禁止法実現への取り組み状況」についての講演会を実施しました。

午後は、「インクルーシブ教育とは、教育だけ」と題して、シンポジウムを行いました。シンポジストに、中西勉氏（国立障害者リハビリテーションセンター）、清水聡氏（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）、二宮大祐氏（イオン株式会社グループ人事部長）の福祉・教育・企業の三方を迎えて行いました。前半は、各自の立場での提言をしていただき、後半は、指定討論者の五十嵐正人氏（「ばおぼぶ」代表・植草学園短期大学非常勤講師）コーディネーターの猪瀬義明氏（川村学園女子大学准教授・本研究会会長）の進行のもと、話題を深めていきました。

第3回研究協議会 平成25年8月3日(土)於:淑徳短期大学板橋キャンパス
「共生社会とインクルーシブ教育」をテーマにシンポジウムを開始しました。
午前中は、全体会講師として「共生社会とインクルーシブ教育」大南英明先生に(全国特別支援教育推進連盟理事長)基調講演をしていただきました。午後は、午前中の講演を受けた形で、同様のテーマ「共生社会とインクルーシブ教育」について、シンポジウム開催しました。

シンポジストとして、次の方々に提言をしていただきました。

・日高浩一先生(東京都立水元特別支援学校)

「インクルーシブ教育・スクールクラスターの構築について」

・中野雅義先生(駒込福祉作業所)「障がい者と共生できる街づくりについて」

・土平俊子先生(UR「みまもり住宅」奈良北プロジェクト総括管理者、保健局長)
「ハンデキャップがあっても、最後まで自宅に住み続けられる仕組みについて」

指定討論者として 中西勉先生(国立障害者リハビリテーションセンター)に加わっていただき、会のコーディネートを清水聡(筑波大学附属桐が丘特別支援学校・本研究会事務局長)が努めました。

第4回研究協議会 平成26年8月2日(土)於:淑徳大学短期大学部東京キャンパス
テーマ:「インクルーシブ教育の展望」

全体会講演会(午前中) 10:00~12:00

テーマ:「インクルーシブ教育と権利条約」

講師:尾崎祐三氏(国立特別支援教育総合研究所教育支援部上席総括研究員)

国際潮流の中の「障害者の権利条約」、条約批准と日本の教育の方向性、さらにそれを踏まえた上での「インクルーシブ教育の課題と展望」が提言ありました。

シンポジウム(午後) 13:00~16:00

テーマ:「22世紀生命の時代への序章Ⅳ~インクルーシブ教育の展望」としました。
シンポジスト(3名)

・丹野哲也氏(文部科学省特別支援教育調査官)には、「共生社会の形成を向けてのインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進について」の基本的なこと、インクルーシブ教育の課題と展望について語っていただきました。

・五十嵐正人氏(ばおぼぶ代表、植草学園短期大学非常勤講師)には、もうひとつの福祉という視点から「共に生きる福祉が生み出した新たな隔たり」という提言をいただきました。

・渡邊健治氏(畿央大学教授)一貫して追究してきたインクルーシブ教育についてと、本氏の「インクルーシブ教育」についての持論を提言していただきました。

・指定討論者は、前3回の研究協議会の内容を踏まえ猪瀬義明(川村学園女子大学

教授、日本重複障害教育研究会会長)が行い、コーディネーターは、打浪文子(淑徳大学短期大学部講師・本会事務局)が務めました。

第5回研究協議会 平成27年8月9日(日)於:淑徳大学短期大学部東京キャンパス

◎全体会講演会(午前中) 10:00~12:00 講演とコンサート

講師:青野浩美さん(ソプラノ歌手) テーマ「前例がなければ作ればよい」

※詳しくは、本会の「**第5回研究協議会開催案内**」をご覧ください。

◎トークセッション(午後) 13:00~15:00

テーマ「普通に生きる=インクルーシブに生きる」

本会は、研究協議会において4年間「インクルーシブ教育」について、講演・シンポジウム等で追究してきました。しかし、前年までは、ハンディキャップのある本人の立場でなく、いわば第3者の間で議論が尽くされてきました。「一人でも欠けたら、それは、インクルーシブではない。」という立場からすると、今までの研究協議会は、本人たち抜きの議論であったと言わざるを得ません。そこで、第5回研究協議会では、ハンディキャップのある方々に登場していただき、本音のトークセッションを行いたいと考えました。そして真の意味の「共生社会」に少しでも近付きたいと思います。

パネリスト(ハンディキャップのある方々)

- ・青野浩美さん(ソプラノ歌手)
 - ・橋本美佐男さん(松戸市障がい者自立・自律支援施設「喜楽家」代表)
 - ・佐野俊也さん(アビリティーズ・ケアネット社営業推進本部推進部販促課課長)
- コーディネーター
- ・後藤貴久さん(東京都立北特別支援学校・本研究会事務局員)

さて、多くの方々に、本会の第5回研究協議会に参加していただき、参加されたパネリストの方々から本音の話を聞き、たくさんの示唆をいただきたいと思っています。さらに、多くの参加者にもトークセッションに参加していただき、様々な方々の叡智を結集して、本研究協議会が本会のめざす「共生社会」の実現に向けて一歩でも前進できる一助となれば幸甚です。

平成27年4月吉日

日本重複障害教育研究会会長 猪瀬義明